

大橋鉄工(愛知)と県産業技術センター

レーザー焼き入れ確立へ

国が事業採択 自動車部品に対応

トヨタグループに直接部品を供給する大橋鉄工(愛知県北名古屋市)と子会社の大橋鉄工秋田(横手市柳田、県産業技術センター(秋田市新屋町)は、レーザー照射により直径数ミリの小径金属部品に対応できる新たな熱処理技術の共同研究を進めている。経済産業省の「戦略的基礎技術高度化支援事業」に採択された。大橋鉄工社長らが16日、県庁で会見し、2021年までにこの技術を実用化する計画を明らかにした。

大橋鉄工秋田は現在、オーソロックスの部品「パーキングロットマチック車に用いられる変速ド」を生産。大橋鉄工全体で

年間約1600万本を生産しており、トヨタ車には全てこのパーキングロットが搭載されているという。

開発を目指しているのは、パーキングロットを構成する直径0.7ミリの丸棒など小径部品に用いるレーザー焼き入れ技術。焼き入れは金属表面の強度や耐摩耗性の向上に必要な処理工程で、大橋鉄工は



おおはし・まさし 64年2月、名古屋市生まれ。名古屋学院大経済学部卒。88年大橋鉄工入社。常務取締役などを経て、00年から現職。

大橋鉄工・大橋雅史社長

センターの存在が本県進出決め手に

発展に人材育成不可欠

大橋鉄工の大橋雅史社長(55)が16日、秋田市で秋田魁新報社のインタビューに応じた。横手市の横手第二工業団地で操業している子会社・大橋鉄工秋田の現状や、同じく自動車部品製造のイイダ産業(愛知県稲沢市)が同団地に進出する際のメリットなどを聞いた。

「大橋鉄工秋田の現状は。製造が始まった。生産は順調だ。秋田化学工業(にかほ市)と太平洋成工業(秋田市)、東京第一(大仙市)がパートナーになってくれたことで、新たに3種類の部品を作ることができ。愛知で製造し、トヨタ自動車東日本(宮城県

大橋村)に納入していた部品を秋田で作ることになる」

「本県の印象は。」

「反応が早い。災害など不測の事態が発生した場合のBCP(事業継続計画)対策として愛知県外に工場を建設することを考えていた中、秋田県から誘致の話があったのは2015年春。その年の11月に大橋鉄工秋田を立ち上げることができた。北名古屋市の本社のある場所は田んぼが広がっており、横手も同じ空気を感じた。ここなら違和感なく事業を行えると思った」

「県産業技術センターと共同研究を進めているが。」

「進出の決め手となった1つにセンターの存在がある。(金属製品の硬度強化に必要な熱処理加工の)レーザー焼き入れ技術を研究していることを知り、この技術を用いる

ことができないかと、共同研究を持ち掛けた。センターの知見を借りることで、実現できるところが増えると思った」

「イイダ産業が横手第二工業団地への進出を決めた。」

「同じ業界で秋田のファンが増えるのはうれしい。イイダ産業とはBCPや人材確保、増産対応など目標や課題に共通点がある。トヨタ自動車東日本という共通の取引先に対し、共同進出によるコスト削減なども相談できる」

「本県の課題をどう見る。作る人を育てなければ発展していかない。愛知では毎日のように自動車に関する知識や技術習得のためのセミナーが開かれる。工業団地に企業が集まると、こうしたセミナーのニーズが高まり、開催を呼び込むこともできる」



レーザー焼き入れ技術の研究概要を説明する大橋社長(右から2人目)ら

現在、誘導加熱技術により部品の強度を高める高周波焼き入れを行っている。しかし、高い熱量を加える高周波焼き入れは、部品の形状によってはずみが生じるなどの弱点がある。

電動化に伴うバッテリー搭載で自動車の重量は増え、パーキングロットにかかる負荷が大きくなり、変形や摩耗などの恐れが高まっているという。

同席した県産業技術センターの赤上陽一所長は「さまざまな細さや形状に対応するためには課題もある。レーザー焼き入れ処理を大橋鉄工秋田の工程内に取り入れるよう、支援していきたいと話した。(木村織音)

あきた自動車産業振興協総会

人材確保、企業PRに力

産官学でつくる「あきた自動車産業振興協総会」(代表幹事・佐竹敏久知事)の本年度総会が16日、秋田市のホテルメトロポリタン秋田で開かれた。商談会や企業PRイベントの開催などを盛り込んだ事業計画を決めた。

約80人が出席。川原誠副知事はあいさつで、県が調査した2017年度の自動車部品等出荷額が前年度比40%増の約1542億円だったことを紹介。「今後も生産性の向上や技術開発など、結果が出るまで支えていく」と述べた。

本年度は、人材育成を目的に県内大学で実施している「秋田ものづくりオープンカレッジ」で、工業高校生を対象とした企業PR会を新たに行う。また、サプライチェーン

総会後、大橋鉄工の大橋雅史社長が、外国人材の活用について講演した。

引き続き、東北6県と新潟県、自動車関連産業などでつくる「あきた自動車産業集積連携会議」(代表幹事・遠増拓也岩手県知事)の本年度総会も開催。会員ら約170人が出席し、自動車メーカーへのトップセールスや、次世代自動車の研究開発などに取り組むことを確認した。

総会後は、元トヨタ自動車取締役副社長の佐々木真一氏「秋田市出身」が「自動車業界の今後に向けたトヨタの品質経営」と題して講演した。(藤岡真希)